

もみじ

—広島山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 令和 5 年度定時総会 (5/13 東方 2001) 報告
2. 第 30 回比婆山国際スカイラン (5/27~28) 報告
3. クライミングスクール (5/14 三倉岳 源助崩れ) 報告
4. ありんこチーム活動 (5/7 八幡高原、4/8 岩淵山・感応山) 報告
5. 岳連短信 (寄贈御礼、6~7 月の行事予定)

1. 令和 5 年度定時総会報告

(事務局 西部 伸也)

日時: 5/13(土) 15:00~15:45

場所: ホテルチューリッヒ東方 2001

出席者 22 名 (広島山岳会・横山正雄、福山山岳会・原田繁紀、広島県庁山の会・松井秀樹、広島大学山の会理事 副会長・後藤裕司、日本山岳会広島支部 理事・近藤道明、広島三峰会・小方重明、自然と文学愛好会広島 理事長・豊田和司、個人会員・勝村博己、同・金村栄蔵、名誉会長・京才昭、参与・佐藤建、理事 会長・山田雅昭、同 副会長・大田祐介、同 同・村井仁、同・永津信吉、同・新山まゆみ、同・福永やす子、同・三村孝治、監事・菊間秀樹、事務局・西部伸也、新理事予定・荻田純代、同・宮本由美子)

懇親会 16:00~17:30 同ホテル 19 名 (原田、松井、後藤、尾道、近藤、豊田、勝村、金村、京才、山田、大田、村井、永津、新山、福永、三村、菊間、西部、亀井一夫)

5 月 13 日(土)、例年のようにホテルチューリッヒ東方 2001 において当連盟の今年度定時総会が開催されました。

出席者は各所属団体代表 7 名・個人会員 2 名・団体代表以外の名誉役員 2 名・理事 7 名・監事 1 名・事務局 1 名・新理事予定者 2 名の計 22 名で、委任状も含めて出席者の議決権個数は 227 分の 202 でしたので、総会は十分に成立しました。

1 号議案の**昨年度事業報告**については、配布された総会資料を基に理事長から一括して説明がありました。ここ 3 年間コロナで多くの事業中止がありました。それでも昨年度は比婆山国際スカイランや指導部の登山教室・クライミングスクールなど、一定程度の事業復活がありました。また、競技部では国体中国ブロック予選を主管しました。

続けて 2 号議案の**昨年度決算報告**については事務局から説明を行いました。令和 4 年度の総会では、80 周年記念誌発行等で出費増が見込まれることから 130 万円ほどの赤字予算を承認いただいていたが、記念誌購入の協力や指導部事業での収入増などがあり、連盟の正味財産の減少幅は 97 万円ほどに抑えることができました。

3 号議案の**今年度事業計画**については理事長から説明がありました。おおまかな事業方針は登山とスポーツクライミングの両立という JMSCA (日本山岳・スポーツクライミング協会) の方針を従来通り踏襲し、個別の重点項目としては、スポーツクライミングの強化/P R・安全登山の啓発/推進・県民ハイキングの実施・安定した財政基盤を目指すことを掲げ、昨年度の創立 80 周年事業(記念誌発行)の遂行と良識的なコロナ対応については今年度は終了したものとしました。事業計画の詳細については、村井副会長作成の一覧表のとおりです。

4号議案の今年度予算案では、昨年度のような赤字予算を組む必要はないことから、収支トントンを目指した予算案とし、3号議案の事業計画共々承認されました。

最後に、今年度は2年に1度の役員改選にあたるため、3人の理事の退任と4人の新理事選出が提案され、これも承認されました。退任および新選出の理事の方は以下の通りです。(敬称略)

退任：永津信吉、福永やす子、錦織宏美

新任：佐藤建(再)、荻田純代、宮本由美子、松井秀樹
また、松島理事と佐藤理事は副会長を務めることが理事間で決まりました。

総会終了後の懇親会は、昨年同様バイキングでなく個食弁当形式で実施され、例年のように最後は出席者全員のスピーチを頂き、楽しい会となりました。



総会の様子 (山田会長が司会)



総会と同会場で行われた懇親会

2. 第30回比婆山国際スカイラン報告

(参与・実行委員 永津 信吉)

今年5月からコロナ禍の規制が緩和される中、第30回大会は昨年に引き続き5/27(土)・28(日)の両日にわたり、参加選手402名、役員149名(29回大会は322名と171名)の規模で実施されました。27日は例年通り準備作業と前夜祭(登山フェスティバル)、28日が本番の日程で行われました。

一連のイベントは27日9時の役員受付で始まり、役員開会式の後、各領域のリーダーを中心に夕方まで準備作業に汗を流しました。17時より招待選手(芹澤さん、坂根さん、松下先生)も加わって沢山のお酒に弁当で前夜祭が始まりました。加盟団体代表による会の紹介スピーチ、各会相互間の交流、じゃんけん大会と盛り上がりました。19時、前夜祭はお開きになり、招待選手は道後山クロカンの高原荘に移動し、役員の皆さんは各会のテントサイトで、夜遅くまで分科会を開き一層親睦を深めることができました。

28日大会当日は、風は少し強いけど雨の心配は少ない天候で、選手の受付が8時に開始され、開会式は9時30分から行われました。選手の皆さんは、Aコース10時、Bコース10時30分のスタートの号砲と共にスキー場を駆け出し、高低差400mを一気に登りました。標高1200mの稜線では途中2か所で給水を受けて走り抜け、13時25分には最終走者がゴールして、競技は無事終わりました。各コースの男女1位から3位には賞状と盾、記念品が贈られました。その後、選手の皆さんが去られ静寂を取り戻した本部前において、15時より役員解散式が行われ、大会のすべてが終了しました。

大会総括として、第30回大会の記録を残すため、競技時間、気象条件、選手別の記録時間、スナップ写真等を「大会記録一覧」として取りまとめた冊子を作成しました。また、当日は中国新聞社、読売新聞社よりの取材もあり、後日各紙に大会の記事が掲載され、広く地域の方に大会をお知らせする良

い機会にもなりました。

今回は第30回という節目の記念大会であり、特別イベントとしてこれまで大会に功績のあった選手と役員の表彰を行いました。役員の表彰は前夜祭において、小林敏行さん、高田晃範さん、尾道憲二さん、安藤和己さんの4名に「先達の証」を、アドバイザーの芹澤雄二さんには「大先達の証」の称号を送り表彰しました。私も功労者として表彰され感謝に堪えません。また、選手の表彰は開会式において、佐々木誠さん、堀井洋和さん、塩田俊さん、森谷忠弘さんの4名に「先達の証」の称号を送り表彰しました。

振り返ると、大会における一連の作業は、昨年10月の実行委員会体制の立ち上げに始まり、今年の6月の反省会に至るまでの長丁場で、この間予想しない事態も発生しました。2月には突然県民の森でホテルが一部営業休止になり、緊急課題として招待選手の宿泊先、役員朝食の変更が必要で、道後山クロカンの高原荘、広島駅弁に（3食総てが弁当になり迷惑をかけましたが）急遽対応をお願いしました。更に、その後、今まで活躍していた実行委員の一人が急遽参加できなくなり、他のメンバーが作業を分担することになりました。また、役員募集においては、各加盟団体で高齢化が進み、前年並みの参加が得られず、各場所で配置人員を最小限に絞り、何人かは複数の場所を掛け持ちで担当していただく事で何とか実施することが出来ました。

逆に、大会が成功であったと感じる点は、選手の参加が予想以上であった点です。昨年並みの330名程度と思って立ち上げましたが、募集を締め切ると参加選手は400名で、皆さんのスカイランに対する熱い思いが伝わってきました。

また、スカイランは雨が降る大会と言われていましたが、今大会は曇りで、暑くも寒くもない絶好の条件で開催することができました。稜線を駆け抜けた選手の皆さん、それをサポートした役員の皆さん、関係者全員に新緑の比婆山を満喫して帰っていただくこともできました。

大会が終わるのを待つかのように、夜からは雨に

なりました。天気の女神は我々に幸運をもたらしてくれました。30回目のスカイランを無事終わることが出来たことに感謝です。





(以下は前日の準備と登山フェスティバル)

3. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 覚)

第2回 5/14(日)

山城：三倉岳 源助崩れ

人数：22名 (スタッフ含)

前日の雨により天応烏帽子岩を三倉岳に変更しました。とりあえず雨があがっていたので源助に登り、ねずみ小僧下部、ラッキーネーブル下部、モアイクラック下部をトップロープクライミング、猫の悲鳴、ソフトクリームでラッペル(足に巻いて一時停止)をしました。午後、晴れ間も出て岩も乾いたのでヒップクラック下部にもロープをセットし、クイックドロワー取り扱い、ビレイ中のミュールノット、オーバーハンドノットでの仮固定を行ないました。(指導部 塩田 徹)

【感想文】

(受講生 カモト)

今回は私にとって2回目のクライミング体験でした。クライミングの技術や専門用語にはまだ理解が浅く、初心者のため、表現に誤りがあるかもしれませんが、ご了承ください。

当初は天応の予定でしたが、雨のため急遽三倉岳に変更となりました。朝まで雨だったため、炊事棟でのロープワークを想定していたので、登ることになったと聞いて少し戸惑いました。

気を取り直して、スタッフの案内で源助エリアに移動しました。モアイクラックと呼ばれる岩には3本のトップロープとラッペルロープが2ヵ所にセットされていました。朝まで降っていたのに意外に岩は乾いていました。さっそく私たちは2人ずつの班に分かれて講習が始まりました。

クライミングは初心者にとっては苦戦の連続でしたが、徐々に慣れてきて、最後の3本目は少しスムーズに登る事ができた気がしました。上手な人たちと比べると、初心者との能力差を感じ、上級者の動きを観察して自分の技術に取り入れたいと思いました。

ATCを使ったラッペルは初めての経験でした。下降しだすと初めて下が見え、その高さに驚きましたが怖さは感じませんでした。体力をあまり消耗しないため、

楽しむことができました。ATCという単純な器具で崖を下降できることには不思議さを感じました。

さらに、クイックドロワーの使い方やミュールノットについて学びました。クイックドロワーの使い方は理解できましたが、ミュールノットには練習が必要だと感じました。この講習は平地で模擬的に実施されたので、ATCにセットするロープの方向や、カラビナの環がロープと反対にセットされることにも注意が必要と学ぶ事ができました。

まだクライミングを始めたばかりで、僅かな岩の出っ張りに立てないなど登るのに苦労しました。しかし、上級者たちのルート選定や手足の使い方を研究し、少しでも技術を身につけたいと思いました。技術の習得には時間がかかるかもしれませんが、地道に一つずつ習得していきたいと思います。また、登るより前に、まずビレイの正確なロープさばきを身につける必要性を感じています。

最後に、今回も丁寧なご指導をいただいたスタッフの皆さまに心から感謝申し上げます。受講生の皆さまとも交流できて、とても良かったです。今後もクライミングの技術向上に努め、安全に楽しみながら成長できればと思います。引き続き、よろしくお願ひいたします。

(受講生 李 京子)

三倉岳の六合目を過ぎた辺りから登山道から外れ、獣道と岩場の先に現れた大きな岩壁の前で荷を下ろす。「源助崩れ」という巨大な一枚岩だった。源助とは「心得顔に事をなして忽ち失敗する愚人」とのこと。凡人には歯が立たない岩場との命名だろうか。新緑の山と空を背にしたリーダーより、下降器を用いた懸垂下降について説明を受ける。その間きびきびと講習会場が整えられていた。この日のペアが発表される。源助崩れ四ヶ所で登攀、付近二ヶ所での懸垂下降が課題だった。懸垂下降では、崖の上下で丁寧な安全確認と指導を仰ぐ。セルフビレイを解除し、切り立つ岩から逆さに空中へと身を投じる。岩壁を歩くルパン三世の世界は爽快だった。次に源助崩れの左側に立つ。聳えた岩の上からロープ

が何本も垂れ下がっている。ビレイ役からだったが、クライマーが準備を整えているそばで、私も真剣にエイトノットを結っていた。一本のロープ両端から、パン喰い競争さながら登らんとする私を見てスタッフが呆れたのも無理ない。あの高さを登るには、最上部に支点を築くトップロープまたはリード、二種類の練習方法があることを今さら合点する。失敗しても滑落しない安全な状態で各自完登または限界まで登ったところでビレイヤーに合図する。上から「テンション」と聞こえるも、さて今度はロープを張るのやら緩めるのやら。下降時には足の踏ん張りが効かず、ビレイヤーの私が宙を舞った。高所にいたパートナーの不安いかばかりだっただろう。クライミングにおけるペアの意味をここで知り、謝って帰りたいところだったが、役割交代する。初回だった先月は、手も足も出なかった記憶だけ残る。岩壁にとりつく。ルート探しに集中すると高所恐怖は遠のくが、手がかり足がかりは見当たらない。岩の割れ間は有効なホールドだったが、手足をやみくもに突っ込み、頭でなく身体が動くに任せる。足の側面ではなくつま先をかけるようにと聞こえるも、岩壁のわずかなふくらみに体重を預けるのは恐ろしい。手がかりを掴むのに反動をつけて良いものか躊躇われ、ゴリラのようにただぶら下がっている間、森の時間が静かに流れた。その間、ビレイヤーとスタッフは下でじっと見守ってくれていた。予想されていた雨には結局降られることなく、気付くと夕方だった。ロープへの脚がらみ・ミュールノット・セルフビレイも教わり、他に聞き慣れない用語も飛び交っていたが、私にはもはや容量オーバーだった。帰りは車のハンドルを握れるかと思うほど上半身だけ疲労困憊していた。手は傷だらけで、テーピングする意味もわかった。

岩登りに初めて魅せられたのは、昨年登った東赤石山だった。自然のアスレチックのような岩場の尾根は楽しかったが、高レベルな技術に加え、一人ではできないクライミングが自分に必要かと今さらながら思われ、感想文のご指名を受けてからというものの心が重かった。ロープワークは豚に真珠、身の丈

を超えるもののように思ってきたが、それでもおかげで結えるようになったエイトノットは、実用を超えて美しい。これまで山に誘われ、未知なる世界を垣間見た。クライミングを楽しいとはまだ思えないが、深遠なる世界に足を踏み入れれば、更なる境が開けるだろうか。自他を危険に晒すことのないよう、少し真面目に取り組んでみたい。親切なスタッフほか皆さまに感謝いたします。

(写真提供 塩田)



4. ありんこチーム活動報告

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

順調に投稿出来ていた原稿が環境の変化で突然と途絶えてしまい、申し訳なく思っています。なんとか修復出来る状況になりましたので、久しぶりに(まったりとした企画)ですが投稿させて頂きました。

またよろしくお願ひいたします。

参加者の感想文ならびに写真です。

『ありんこチーム山菜山行』

(個人会員 金村 栄蔵)

日 時：5月7日(日)

場 所：八幡高原

連休最終日の日曜日。土曜日は一日中雨だったので朝の曇った空はこの日雨の降らないまあまあの天気を予想する嬉しいものでした。

皆さんと合流して話題の新しい朝の連続テレビ小説の主人公、牧野富太郎の石碑を見た後、わらび、タラの芽とかを採取。みんなで山菜採りしてる時は、雨に祟られる事もなくわいわいととても楽しく時間を過ごすことができました。

山荘で早速山菜洗って天ぷらにして食べました。天ぷらだけでなく、香茸のおむすび、お味噌汁など一人暮らしでは間違い無く食べる事の無いものばかり頂いてとても美味しかったです。

調理準備では、なかなか皆さんのお手伝いが出来ず、オロオロするばかりで一人暮らしの男の役に立たなさを痛感してしまいました(笑)。

病気の流行が収束し、これから少しずつでも山を歩きたいと思う今日この頃です。



『チームありんこ』4月の山行

(個人会員 松井 良子)

4月は参加者8名で岩稜歩き、岩淵山から感応山を経て、湯の山温泉までの縦走です。

4月8日(土曜日)、昨夜から明け方までの雨、岩稜歩きには微妙な状況。

丸子山憩いの森に車を止めて岩淵山登山口へ、入口の目印は「登山ではありません。クライミングです」の看板でした。

しばらくすると岩場に到着。傾斜の強い岩稜を、ロープや鎖を頼りに、登っていきます。松の木が横になっていて、そこをくぐる?あるいは跨いで超える?私はくぐりました。登ってくる人を励ましつつ、景色を楽しむ余裕?ありません!ここからも更なる岩

場なのです。ドキドキの岩場体験は1時間ほどで終わり、そこからは藪漕ぎをしながら岩淵山へ到着して、ほっと一息の楽しい昼食タイム。

可愛らしいピンクのイワカガミを写真に納めつつ感応山へ到着。天候が回復したこともあり、岩の上で和やかな雰囲気のちょっとした写真撮影会です。

そこからの道中は、足元よりは目線が上を向き、日当たりが良いところでは、コシアブラ探し、ウコギも食べられる？山菜で話が盛り上がります（リーダーが先頭で説明、なんとなく見分けができて嬉しい！）。そのような感じなので、上を見すぎて大きな石があることに気づかずこけましたが、手袋着用で怪我はなく、ほっと安心。

湯の山神社、湯の山旧湯治場、湯の山若鯉の森カープ新入団選手のプレートを写真に納め、最後は、全員でマダニチェック。なんと、数人のズボンや、靴下のくるぶしあたりにマダニ発見です。これからの季節、対策を講じる必要性を痛感しました。

午後からは天候も回復し 5.7 kmの岩稜歩きと藪漕ぎ、楽しい時間を過ごすことができました。参加者の皆様、ありがとうございました。

行動報告

岩淵山登山口 8時35分 岩淵山 11時54分

感応山 13時05分 感応山登山口 13時47分



5. 岳連短信

1. 寄贈御礼

5/21 三原山の会『筆影』No. 519 (6月号)

5/25 福山山岳会『会報』6月号

広島山稜会『峠通信』第767号 (5月号)

広島やまびこ会『やまびこ』800 (6月号)

5/28・6/12『中信高校山岳部かわらばん』723・724

2. 6~7月の行事予定

6/18 JMSCA総会 (東京都)

6/25 救急法研修会 (東区スポーツセンター)

7/21~23 国体中国ブロック予選 (山口県)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。